

JA三重厚生連は、医療・保健・福祉活動を通じて、組合員と地域住民の皆さまが、安心して健やかに暮らせる地域づくりに貢献していきます。

厚生連だより

Letter of JA Mie Koseiren

Vol.100

2026.4

100 号記念号

おかげさまで創刊100号

もくじ

『100号記念』写真で振り返る厚生連だより	2
特集 ゲノム医療 遺伝子情報に基づきがん治療法の最適解を導く	3
病院だより	
患者さんの「想い」に寄り添い、地域で支える一貫したケアを目指して	4
「行きたくなる 通所リハビリセンター」を目指して	5
骨粗鬆症から大切な骨を守るために	5
「どんとこい大台祭り」に参加しました	6
みーこおねっと合同研修会を開催しました	6
三重県障がい者就農促進協議会より感謝状をいただきました	7
認定看護師紹介 看護の専門性を、患者さんの回復を支える力に	8
information 2027年度職員募集（新卒・既卒）	9
特別食紹介 当院の蛋白質調整食紹介します	10

CHECK!



JA三重厚生連
を紹介!



「厚生連だより」は、三重県厚生連の情報機関誌として平成6年9月に創刊し、このたび第100号を発刊することとなりました。厚生連だよりは、7つの事業所が展開する医療・保健・福祉にかかる専門記事、病院の新築移転および増改築、高度医療機器の導入、市民公開講座や病院際などのイベント情報、自宅で作れる病院特別食の紹介などをタイムリーかつ三重県厚生連を身近に感じていただけるよう工夫を凝らした記事を掲載してまいりました。

これまで、広報誌の発刊に携わった関係者の皆様、楽しみにしてくださっている地域の皆様に心より感謝申し上げます。これからも健康に役立つ情報発信に努め、皆さまが安心して健やかに暮らせる地域づくりに貢献してまいります。

三重県厚生連 広報委員会一同



『100号記念』写真で振り返る 厚生連だより



特集

ゲノム医療

遺伝子情報に基づきがん治療法の最適解を導く

松阪中央総合病院 がんゲノム診療科部長（産婦人科部長）

谷田 耕治

当院は、令和8年1月に県下で2番目の「がんゲノム医療連携病院」の認定を受けました。これにより、がんゲノム医療拠点病院（三重大学付属病院）と連携し、患者さんに合った治療を提供する事が可能となりました。



これまでのがん治療では、がんが発生した部位（臓器）に基づいて治療法が決定されていました。しかし、最近では、がんの原因となる「遺伝子の変化」に着目する新しいアプローチが注目されています。がんは主に遺伝子に傷がつくことで発生し、その変化の内容によって、がんの種類や進行具合が異なります。近年の研究で、同じ遺伝子の変異があれば、異なる臓器で発症したがんにも同じ薬剤が効果を示すことが明らかになっています。

このような「ゲノム医療」によって、がんの原因となる遺伝子を特定し、患者さん個々に適した最も効果的な治療薬を選択することが可能になり、「個別化治療」ができる時代となりました。

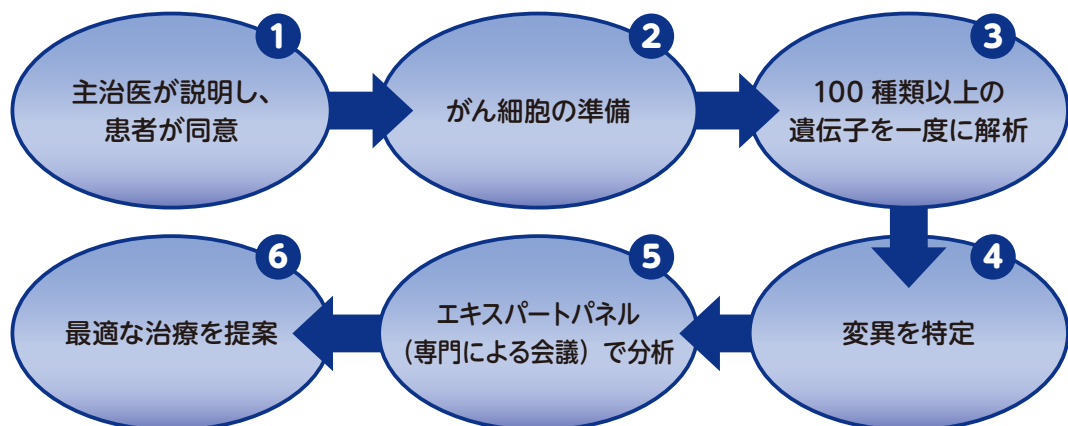
治療を受けられる対象の患者さんは、①標準治療がない、②標準治療が終了している、③治療終了が見込まれる固形がんのいずれかの方になります。

検査は主に腫瘍組織や血液（リキッドバイオプシー）を用いて行われ、エキスパートパネル（専門家による会議）で結果を総合的に評価します。エキスパートパネルでは当院と三重大学付属病院のがんの専門医がウェブ会議を通し、患者さんの状態にあった最適な治療方針を決定します。

現時点では、遺伝子変異が特定できない場合もありますが、仮に遺伝子変異が見つかって、利用可能な治療薬がないこともあり、遺伝子パネル検査を通じて自分に合った薬を見つけられる可能性は、おおよそ10%程度とされています。検査結果は、今後の治療方針の検討材料として主治医から説明します。

がん治療は今、大きな転換期を迎えています。がんパネル検査は、より最適な治療への第一歩となる可能性があります。最新の医療技術を活用し、患者さんに合った治療法を見つけるために、がんパネル検査という選択肢が今後広まって行ければと考えております。

がんゲノム医療の流れ



受診の流れは、担当主治医から「がんゲノム診療科」への受診予約を取り、がんゲノム診療科の医師から実施する検査の説明を行い、結果説明まで約2ヶ月を要します。一人でも多くの方により適した治療を受けられるようサポートしてまいります。

患者さんの「想い」に寄り添い、 地域で支える一貫したケアを目指して

病院だより

鈴鹿中央総合病院 患者支援センター 看護師長 尾崎 美恵

当院では平成31年11月より、PFM (Patient Flow Management) を導入しています。PFMとは入院が決まってから退院後の生活までを見据え、切れ目のない支援を提供する仕組みです。

患者支援センターは、患者さんやご家族が「これから始まる治療や生活」に対して抱く不安を、少しでも安心へと変えられるよう支える総合窓口です。入院や手術を控えたとき、「これからの生活はどうなるのだろう」「自分の気持ちを本当に分かってもらえるだろうか」と不安に感じるのは自然なことです。私たちは、その切実な想いを何よりも大切に受け止め入院前から退院後まで一貫した支援を行っています。

事前オリエンテーションでは、単なる手続きの説明に留まらず、病状や生活環境、そして抱えておられる小さな疑問や不安まで丁寧にお聴きします。

手術を控えた方には、術後回復を促進するための具体的な情報提供を行い、安心して治療に臨めるよう支援します。

退院後も住み慣れた地域でその人らしく生活できるよう、地域の医療機関や介護施設との「顔の見える連携」を大切にしています。「退院して終わり」ではなく、早期から退院後の生活環境や課題を見据え、病棟スタッフ、地域医療機関、訪問看護師、ケアマネジャーと協働しながら支援を進めています。

また急な入院や重症の場合には、重症患者初期メディエーターが医療チームと患者さん・ご家族の間に入り、想いや背景を丁寧に受け止めながら、より良い意思決定につながる対話の架け橋となります。

看護師や医療ソーシャルワーカーをはじめ、薬剤師、理学療法士、管理栄養士、臨床心理士など多職種がワンチームとなり、医療費や社会保障、療養生活の課題にも幅広く対応しています。

私たちは、「まずは話を聞いてほしい」というお気持ちを大切に、対話を重ねながら、患者さんにご家族が安心して治療に向き合える環境づくりにこれからも取り組んでまいります。



「行きたくなる 通所リハビリセンター」を目指して —デイケアセンターいきいきの紹介—

病院だより

三重北医療センター菰野厚生病院 通所リハビリテーションデイケアセンターいきいき 看護師主任

安井 雅子

通所リハビリテーションデイケアセンターいきいき（以下デイケア）は、「住み慣れたご自宅での生活を安心して続けていただくこと」を目標に多職種でリハビリの支援を行っています。デイケアではこれまでの機能訓練から「生活の向上」「社会参加」「楽しみの追求」にシフトしています。

セラピストによる個別リハビリでは一人ひとりの生活目標に合わせたプログラムを作成し、日常生活の維持・向上に至るまで、個々の能力に合わせたサポートを実践しています。最近は新たに集団リハビリや自主トレーニングを導入し、仲間と切磋琢磨しながら取り組む楽しさや、継続しやすい環境づくりを心がけています。また、セラピストと連携し、看護師、介護福祉士、看護補助員による機能訓練を取り入れたレクリエーションにも力を入れています。体操や脳トレ、季節に合わせた催しや行事、楽器演奏など多彩なプログラムを企画しており、昨年8月には吹奏楽団の方々に来ていただき、迫力のある演奏に合わせ、自然と手をたたいたり、歌ったり楽しんでみえました。そして特に人気のある催しはカラオケや麻雀、カードゲームで、「楽しかった」「またしたいな」という声もたくさん聞かれています。

このような楽しい時間を共有することで、自然な社会交流が生まれ、心身の活性化や機能維持・向上につながっています。これからも、ただ身体機能訓練をするだけでなく、「社会とつながる」場所として「行きたくなる」デイケアへの進化を追求していきます。



骨粗鬆症から大切な骨を守るために

病院だより

三重北医療センターいなべ総合病院 骨粗鬆症マネージャー 看護師

吉川 愁花

日本における骨粗鬆症の有病者数は約1,590万人といわれており、そのうち女性は約1,180万人、男性は約410万人を占めています。高齢化の進行に伴い、有病者数は年々増加しています。

一方で、骨粗鬆症の治療率は15～20%程度と低く、多くの方が治療につながっていないことが課題です。骨粗鬆症は自覚症状が乏しく、骨折をきっかけに初めて診断されることも少なくありません。骨折は日常生活の自立に大きく影響するため、早期発見・早期治療、そして治療の継続が重要です。

骨粗鬆症の治療は長期間にわたることが多く、継続のためには多職種による支援が欠かせません。骨折予防を目的とした取り組みであるOLS（骨粗鬆症リエゾンサービス）では、当院の看護師・薬剤師・理学療法士の骨粗鬆症マネージャー3名が連携し、患者さんを支援しています。

当院ではOLS活動の一環として、骨粗鬆症外来および骨粗鬆症教育入院を実施し、検査や薬物療法だけでなく、運動指導や生活習慣のアドバイスも行っています。

地域の皆さまがいつまでも元気に過ごせるよう、今後も骨折予防と健康寿命の延伸に取り組んでまいります。気になる方は、お気軽に主治医や看護師にお申し出ください。



「どんとこい大台祭り」に参加しました

病院だより

大台厚生病院 看護部長 神内 順子

11月16日(日)大台町報徳診療所と協力して、地域のイベント「どんとこい大台祭り」に参加しました。当日は天候にも恵まれ、会場は多くの来場者でにぎわい、活気あふれる1日となりました。

ブースでは、体力測定コーナーとしてロコモテストと握力測定を実施し、健康づくりのきっかけとなる機会を提供しました。

ロコモテストは、移動機能の状態を確認し、将来的なロコモティブシンドローム予防につなげるための簡便なチェックです。握力測定も合わせて行うことで、ご自身の体力の目安を知っていただきました。子どもから高齢者まで幅広い世代の方々が興味を持って参加してくださり、約250名の皆さまがお立ち寄りいただきました。

会場では「思ったより握力が強かった」「これから少し運動を意識したい」などの声が聞かれ、笑顔あふれる交流の場となりました。若い方々やお子さんの元気な姿はもちろん、ご高齢の方もいきいきと測定に取り組まれている様子が印象的で、地域の皆さまの健康意識の高さを感じました。

今回の参加を通じて、医療や健康をより身近に感じていただくとともに、当院の取り組みを広く知っていただく良い機会となりました。

これからも地域とのつながりを大切に、「ちかくにいるから、できることがある。」をコンセプトに患者さまから安心して選んでいただける病院を目指してまいります。



みーこむねっと合同研修会を開催しました

病院だより

南島メディカルセンター 総務兼医事係長 北前 進也

南島メディカルセンターと町立南伊勢病院は、南伊勢町全体の医療・ケアを一体的に提供する体制を整えるとともに、将来にわたり持続可能な地域医療・へき地医療体制の構築を目指すことを目的とし、「南伊勢町地域医療ネット」通称「MiCoMnet / みーこむねっと」を設立しています。

1月31日(土)、南島メディカルセンターにおいて、「みーこむねっとの歩みとこれからの連携へ」をテーマに、第4回合同職員研修会を開催しました。両医療機関から計48名の職員が参加し、活気ある研修となりました。

研修会前半では、町立病院山添院長より「南伊勢町地域医療ネットの初期成果」についてご講演いただきました。また両医療機関から「看護部連携及び地域連携における取り組み」や、「薬剤師派遣について」の報告がありました。いずれも両医療機関の交流で人材・資源の有効活用がより進んだことや、住民参加イベントの実施で町民の信頼を得られていることが実感できているとお話いただきました。

研修会後半では、職種を問わず8つのグループに分かれて、「成果とこれからの連携」をテーマに意見を交わしました。限られた時間での意見交換でしたが、現場の意見を共有することで、参加者同士の理解と信頼が深まり、今後の方針が一層明確となりました。

今後もこのような交流の場を継続し、地域の皆さまにとって安心・安全な医療の提供を目指してまいります。



三重県障がい者就農促進協議会より感謝状をいただきました

病院だより

鈴鹿厚生病院 総務課長 池田 進平

このたび当院の山村医師が、一般社団法人三重県障がい者就農促進協議会より設立 10 周年を迎え感謝状を贈呈されました。本感謝状は、当院医師が同協議会主催の「農業ジョブトレーナー養成講座」において指導を行い、障がい者就農の推進および支援に携わる人材育成に貢献してきたことに対し、その功績が高く評価されたものです。

「農業ジョブトレーナー養成講座」は、障がいのある方が農業分野において安定的かつ継続的に就労できるよう、現場で支援を行う人材の育成を目的とした講座です。山村医師は、医療専門職の立場から、障がい特性への理解、健康管理や体調変化への配慮、作業環境における安全確保、支援時の適切な関わり方などについて講義および助言を行い、受講者が現場で実践できる知識と視点の提供に努めてまいりました。

当院は、「ささえあい、ともに生きる」という理念のもと、診療や治療にとどまらず、障がいのある方が地域社会の中で自分らしく生活し、社会参加を継続できるよう支援することを重要な使命としています。医療・福祉・農業が連携する農福連携の取り組みは、働く場を支えると同時に、人と人とが支え合う地域づくりにつながるものであり、当院の理念を具体的に体現する活動の一つです。今後も当院は、関係機関や地域との連携を一層強化し、専門性を生かした人材育成と支援活動に貢献してまいります。



看護の専門性を、患者さんの回復を支える力に

認定看護師紹介

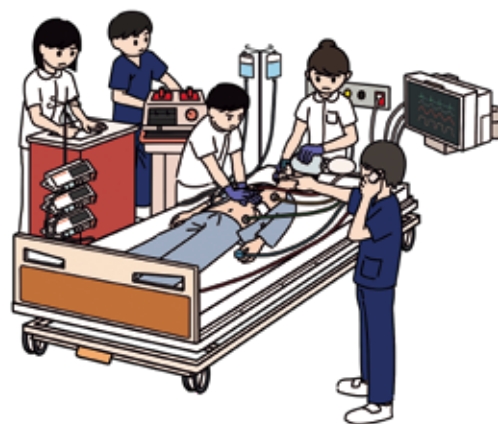
松阪中央総合病院 クリティカルケア認定看護師 看護師主任 竹林 正樹

私は、クリティカルケア認定看護師としてICU（集中治療室）に勤務しています。ICUは、手術後や重篤な状態にある患者さんを受け入れ、集中的に管理する部署であり、迅速かつ的確な判断と対応が求められます。ICUに入室した患者さんの多くは様々な医療機器に囲まれるため、患者さんは勿論のことご家族にとっても強い緊張や不安を生じる環境下にあります。モニター等の数値だけでなく、表情や身体のわずかな動き等にも目を配り、五感を使って変化をとらえ、早期に介入することを大切にしています。

現在は、看護師特定行為研修を修了し、医師の包括的指示のもと、自身の判断でタイムリーかつ迅速に必要な特定行為を行っています。医師の指示を待たずに実施できることで、苦痛の軽減にとどまらず、安全で継続した治療にも繋がっています。

また院内の他部署においても、長期留置用カテーテルの挿入、人工呼吸器の設定変更、薬剤投与量の調整などを行っています。患者さんの状態変化を早期に捉え、即応できる看護師の機動力を活かすことで回復を支えています。

緊迫した状況の中にあっても、患者さんが少しでも安心して治療に臨めるように、これからも日々研鑽を重ね、看護師としての専門性を高めながら、患者さんの回復を支える力になりたいと考えています。地域住民の患者さんのために丁寧に向き合って誠実な関わりを積み重ねていきたいと考えています。



※クリティカルケア認定看護師とは、生命の危機的状態（重症・急性期）にある患者に対して、高度な知識と減速した技術を用いて、重症化の回避や早期回復を支援する専門家。

※特定行為とは、診療の補助であり、看護師が手順書により行う場合には、実践的な理解力、思考力及び判断力並びに高度かつ専門的な知識及び技能が特に必要とされる21区分38行為。



2027 年度職員募集（新卒・既卒）

information

三重県厚生連は、地域へ貢献する医療サービスを提供する仲間を募集しています。

看護師・介護福祉士・看護補助員

看護師

- 応募期間
 - 第1回採用試験 2026年4月25日（土）
令和8年3月23日（月）～4月8日（水）15時必着
 - 第2回採用試験 2026年7月4日（土）
令和8年6月1日（月）～6月17日（水）15時必着

介護福祉士・看護補助員

- 応募期間 随時募集

医療技術職・事務員

● 募集職種

医療技術職

- ◆ 薬剤師
- ◆ 診療放射線技師
- ◆ 臨床工学技士
- ◆ 臨床検査技師
- ◆ 理学療法士
- ◆ 精神保健福祉士
- ◆ 作業療法士（身体）
- ◆ 言語聴覚士

事務員

- ◆ 総合職
 - ◆ 一般職（募集事業所：松阪中央総合病院、鈴鹿中央総合病院、南島メディカルセンター）
- 採用試験
 - ◆ 応募方法 マイナビ2027、マイナビ転職からエントリーしてください。
 - ◆ 応募締切 令和8年4月30日（木）15時必着
 - ◆ 採用試験 令和8年5月予定
※上記以降は、定員に達するまで随時試験を実施します（HP参照）

職員募集の詳細は JA 三重厚生連のホームページよりご確認ください。

<https://www.miekosei.or.jp/sub/recruit.html>

病院見学やインターンシップ、その他のお問い合わせは下記へご確認ください。

厚生連HP



三重県厚生農業協同組合連合会 管理部 人事グループ

〒514-0004 三重県津市栄町1丁目960番地

TEL 059-229-9260 Email recruit@miekosei.or.jp

特別食紹介

当院の蛋白質調整食紹介します

三重北医療センターいなべ総合病院 管理栄養士

瀬古 ちさと

蛋白質調整食は様々な理由により腎臓の機能が著しく低下した患者さんに対して病気の進行を抑制することを目的にお出しする食事です。

塩分、蛋白質、カリウムの制限やエネルギーの確保と一見、難しそうに感じますがポイントさえ押さえれば、家族と一緒に季節の食事を楽しむことが出来ます。特に今回は既製品の厚焼き玉子を使って時短に仕上げてあります。

栄養量(1食1人分)

● エネルギー量	600kcal
● たんぱく質	17.4g
● 脂質	15.2g
● 塩分	2.0g

●巻き寿司

材料(1人分)

	かんぴょう	4g
	椎茸(冷凍)	10g
A	砂糖	1g
	醤油	0.5g
	ごはん	180g
B	酢	6g
	砂糖	3g
	厚焼き玉子	30g
	きゅうり	20g
	さくらでんぶ	5g
	焼きのり	2g
	甘酢生姜	10g

作り方

- ① 水に戻したかんぴょうと椎茸をAで煮てかんぴょうは20cm、椎茸は薄く切る。

- ② 厚焼き玉子ときゅうりを細長く切る。
- ③ ごはんにBの合わせ酢を混ぜて冷やす。
- ④ 巻きすに焼きのりとごはんを広げて①、②、さくらでんぶを並べて巻く。
- ⑤ 食べやすく切る。
- ⑥ 甘酢生姜を添える。

●かき揚げ

材料(1人分)

	サツマイモ	15g
	玉ねぎ	20g
	人参	10g
A	小麦粉	6g
	卵	5g
	水	5g
	油	6g

作り方

- ① サツマイモを5mmの千切りにして水にさらす。
- ② 玉ねぎと人参も千切りにする。
- ③ Aの衣を①と②に混ぜて揚げる。

●茶碗蒸し

材料(1人分)

	卵	20g
A	だし汁	100g
	食塩	0.3g
	みりん	2g
	醤油	0.2g
	かまぼこ	8g
	三つ葉	1g

作り方

- ① Aのだし汁を作って冷ましておく。
- ② 冷めた①に卵を混ぜる。
- ③ かまぼこを薄切りする。
- ④ 三つ葉は2cmくらいに切る。
- ⑤ 器にかまぼこ三つ葉を入れて②の卵液を注ぐ。
- ⑥ スチームコンベクションで10～15分蒸す。

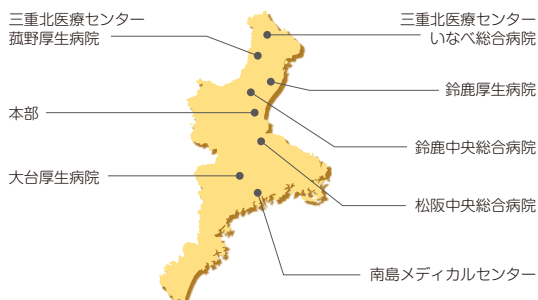
●白和え

材料(1人分)

	もめん豆腐	20g
	ねりゴマ	3g
	すりゴマ	1g
A	砂糖	3g
	醤油	0.5g
	食塩	0.3g
	菜の花	35g
	人参	5g

作り方

- ① 豆腐を水切りする。
- ② 菜の花と人参を食べやすく切って茹でてざるに取り冷ます。
- ③ Aを混ぜて白和えの衣を作る。
- ④ 豆腐と③を混ぜ合わせる。
- ⑤ 水気を絞った菜の花と人参を④で和える。



厚生連だより Vol.100

2026.4 発行

発行/三重県津市栄町1丁目960番地

三重県厚生農業協同組合連合会

TEL 059-229-9191 FAX 059-224-4354

https://www.miekosei.or.jp/ E-mail:info@miekosei.or.jp



自然保護のため、石油系成分の少ない植物油性インキを使用しています。